

Kosodatwitter

☰ 概要

困りごとを投稿すると、AIを用いてその困りごとを行政の適した部署に分配する。
当該部署では投稿者にチャットを通じて応対し、リアルタイムで困り事を解決する。
AIだけで解決できる投稿であれば、その場で解決策を提示する。

例1)子育て時にどのような金銭的援助が受けれるかという投稿に対して、
チャットボットなどのAIを用いてその困りごとを分類し、自治体で該当する部署につなげて困りごとの解決を図る。

例2)近くにどのような保育園があるかという投稿に対して、登録した位置情報から保育園の情報を検索し提案する。

更に詳しい情報を求められた際には、担当している自治体へつなげる。

並行して困りごとは集約され、行政の各部署で参照されて施策に反映される。

同時に相談するほどでもないと感じるような、出産・子育ての悩み事を共有する場を用意し、
「出産・子育て」専用のSNSとしても活用できるようにする。
ゆくゆくは「出産・子育て」以外のトピックでのSNSとしても用意する。

☰ 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

- ・ 出産や子育てで困り事が発生したときに、どこに相談すればいいかわからない。

→子育てに対する不安感や悩みの発生

- ・ 市民が日頃何に困っているのか行政が正確に把握しづらい。

→これらを解消したい。

☰ 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

- ・ 行政の総合窓口として一元化されたサイトを用意する。
→困り事をもった市民はこのサイトで困りごとを投稿する。
- ・ チャットボットを活用し、困りごとをもった市民とリアルタイムで連携を取り、問題の早期解決を図る。
- ・ 投稿された困りごとをAIで処理して、適する役所・部署を選択して分配する。
→当該部署で投稿者に応対し、困り事が処理される。
- ・ 並行して困りごとは行政の各部署向けに集約される。
→行政の各部署で参照されて施策に反映される。
- ・ SNSとしての悩み共有の場を用意し、子育てに関する悩みを問題を共有できるようにする。

☰ 類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

- ・民間や自治体単位でのAIチャットボットは多数存在する。

おやこのミカタ

<https://www.savechildren.or.jp/oyakonomikata/anata-no-mikata/soudan/>

- ・育児・出産に対しての悩みや質問を投稿するサービス

妊娠・出産・子育ての悩みを相談できるWebサービス&アプリ9選

<https://goodiesnakaya.com/parenting/mamaapp/>



有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

- ・窓口を一つに集約しているため、自治体や行政の縦割り区分も気にせず投稿できる。悩みの大小についても気兼ねなく相談することができる。
- ・そのまま当該部署の担当者に対応してもらえる。
- ・行政への相談となるため、適切な援助を受けやすい。
- ・SNSとしての悩み共有の場と、公的機関への質問の場を一括りにすることによって、サイトを開く習慣をつけて使う際の心的負担を軽減する。



実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

- ・各自治体・省庁ごとにクラウド基盤で窓口を設けるが、参加している全自治体・省庁がDBを相互に参照できるようにする。
- ・チャットボットなどのAIを活用し、市民が投稿した困りごとについて自動で分類し、連携先の自治体窓口につなげる。自治体への相談が必要ない場合にはAIがその場で困りごとに対しての解決策を提示する。
- ・Webサイトだけでなく、スマートフォン向けアプリケーションも用意し、市民が気軽に質問を投稿できるようにする。
- ・多くの人が利用しているLINEとの連携を利用することにより、利便性、開発コストを削減することができる。
- ・Twitterから自動で子育てや育児に関するツイートを収集し、共感度の高いもの(いいねの多いもの)を表示する。



課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

- ・システムの導入コスト・ランニングコスト
→国に予算をつけてもらう。
- ・対応するスタッフの人的コスト
→各自治体・省庁に予算をつけてもらう。
- ・賛同しない自治体・省庁の説得
→先行して導入する自治体・省庁の評判を上げる。



期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

・費用

1自治体の人的コスト：400万円 × 自治体数：約1800 = 720億円

・期間は不明。(紙の免許証を廃止するのと同じくらい?)



未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

・従来は子育てで、直接政治に結びつかなかった悩み事などの「生の意見」を行政に反映することができる。

・悩みのある市民はまず、このサービスを利用して、相談することができる
一人で悩まずに気軽に相談することができる

・子育てを国や地域で支える一助となるサービスになること

・子供を育てる上での不安や悩み事を気軽に共有できる場は少なく、人々の心の拠り所となるようなサービスにしたい

→ゆくゆくは子育て以外の悩み相談の場としても成立させる